

令和元年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人岡山大学

1 全体評価

岡山大学は、「高度な知の創成と的確な知の継承」の理念を高く掲げ、「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」という目的を定めている。第3期中期目標期間においては、世界のリーディング大学に伍して、徹底したガバナンス改革の下、国際社会や地域と連携した教育、異分野融合科学や医療等を中心とした研究、並びに社会貢献の全ての分野で、社会のイノベーションを先導する真のグローバルな教育・研究拠点として輝くことを基本的な目標としている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、優秀な若手研究者のポストを確保し、研究力の強化と若手研究者の活躍機会創出のための施策を「若手研究者育成支援パッケージ」として取りまとめるなど、「法人の基本的な目標」に沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、令和元年度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

夏期集中科目として、受入先（山陽新聞社、公益財団法人福武教育文化財団、岡山市立岡山後楽館高校、一般社団法人SGSG）が具体的な課題を提示し、学生はその解決のための活動を行い、成果を上げることが求められる就業体験型学習「桃太郎・桃子チャレンジ」を開講している。（ユニット「世界で活躍できる「実践人」の育成」に関する取組）

グローバル人材育成院において、ライデン大学日本語日本文化研修プログラムを実施し、24人の受入れを行っており、学生アンケート結果を踏まえプログラムの改善・充実を行った結果、次年度プログラムの応募者が増加したことに加え、米国国務省・重要言語奨学金（CLS）プログラムのパートナー校として全米トップクラスの大学生・大学院生26名を受け入れ、アメリカン・カウンシルから最終評価として5段階で「3.92」という高評価を得ている。（ユニット「世界で活躍できる「実践人」の育成」に関する取組）

2 項目別評価

< 評価結果の概況 >	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化						
(2) 財務内容の改善						
(3) 自己点検・評価及び情報提供						
(4) その他業務運営						

. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

組織運営の改善 教育研究組織の見直し 事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載13事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(2) 財務内容の改善に関する目標

外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 経費の抑制 資産の運用管理の改善

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

評価の充実 情報公開等や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

(4) その他業務運営に関する重要目標

施設設備の整備・活用等 安全管理 法令遵守等

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められること等を総合的に勘案したことによる。

・教育研究等の質の向上の状況

令和元年度の実績のうち、下記の事項について注目される。

研究准教授制度、若手研究者育成支援パッケージの新設

論文、外部資金獲得等において優れた実績を有する研究者（講師、助教）のモチベーションを高め、研究代表者として一層活躍することを促進するため、現行の研究教授に加え、新たに研究准教授の称号付与制度を創設するとともに、優秀な若手研究者のポストを確保し、研究力の強化と若手研究者の活躍機会創出のための施策を「若手研究者育成支援パッケージ」として取りまとめている。

国際研究拠点の形成と若手研究者の育成

平成30年度に発足した学長主導の「大学改革促進のための国際研究拠点形成プログラム（RECTOR）」において、海外から第一線の研究者（海外PI）を招へいし、当該研究者の研究室に若手研究者をテニユア・トラック制度で採用することで、世界を先導する研究プロジェクトを推進し、国際研究拠点を形成するとともに、グローバルに活躍できる若手研究者を育成しており、令和元年度末までに、3名の海外PIを招へいするとともに、若手研究者を採用し各海外PIの研究室にそれぞれ配置している。

共同利用・共同研究拠点

災害復旧による共同利用・共同研究の強化

惑星物質研究所では、平成28年の鳥取県中部地震による被害により、共同研究者受入れの一部制限を行っていたが、研究基盤の復旧が完了し、一部制限を解除しこれまで以上に共同利用・共同研究を推進している。また、アストロバイオロジーとサンプルリターンミッションの回収試料の分析に必要な研究基盤の整備を実現し、新たな学術研究を進展させている。

附属病院関係

（教育・研究面）

看護師特定行為研修の実施

令和元年6月に看護師特定行為研修実務者会議を立ち上げ、指定研修機関申請のための検討を重ね、令和2年2月に厚生労働省より指定研修機関の指定を受けるとともに、5区分8行為の術中麻酔管理領域パッケージ研修及び12区分15行為の外科術後病棟管理領域パッケージ研修の認定を受け、看護師特定行為研修室の整備やe-learning等の研修環境を整えるなど特定行為研修の実施に向けて取り組んでいる。

（診療面）

人工知能（AI）による糖尿病性腎症の自動判断ツールの開発

蛍光画像からは診断が困難な糖尿病性腎症を、AIにより100%の確率で診断できる診断ツールを開発し、将来、AIが人間の目では気付きにくい糖尿病性腎症の診断補助ができる可能性があるなど、質の高い医療の提供のため、開発に取り組んでいる。

不明熱外来の開設

病因が明確でなく原因不明のまま発熱が続き、診療が複雑な不明熱に特化した外来を開設し、診療体制の整った環境で体系的に診断・治療を行い、専門的な検査や総合内科・総合診療科を中心とした複数の診療科で連携する体制を整備している。

(運営面)

病院職員の働き方改革

医師・歯科医師の勤務時間管理については、「勤務時間管理兼超過勤務命令簿」の様式を変更することで、自己研鑽活動の時間も含めて全ての在院時間を把握し、適正な勤務時間管理が可能となるとともに、客観的な方法による勤務時間管理を行うため、位置情報を基に、スマートフォンを利用した新たなシステムを令和2年度に導入するため、運用方法の整備やシステムのトライアルを実施するなど、病院職員の働き方改革を推進している。

在宅勤務、ダイバーシティ推進センターの設置を通じた医師等の処遇改善

ダイバーシティ推進への取組として、ダイバーシティ推進センターを設置し、育児・介護等のライフイベントと勤務を両立できるような柔軟な働き方を取り入れ、キャリア支援に取り組むとともに、放射線科医師を対象に、画像診断システムを利用した在宅勤務制度を導入するなど、医師等の処遇改善を推進している。